

くよみ通信

No. 37 2021/12/01

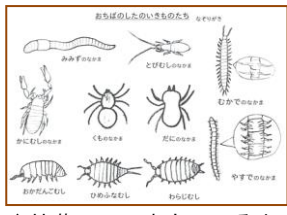
13日



青陵インパクト



14日

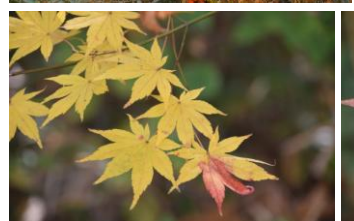


↑ 枯葉の下に生きている虫たちを、イラストにしている向井康夫先生

18日



↑ 18日紅葉観察会



青陵の森をめぐる 様々なイベント目白押し

11月は、青陵の森を会場にしたイベントが、色々と開催されました。

13日には、青陵インパクトという青陵中等教育学校生徒のボランティア団体が中心になって、小学生親子が青陵の森で採取できる自然素材を利用してクラフト制作やクイズラリーを体験しました。

14日は、集いの広場で「青陵の森を楽しもう」秋の自然観察会」と銘打った吉成市民セ

ンター主催のイベントが行われ、8組20名の小学生と保護者が参加しておりました。

講師は「むかい・いきもの研究所」を主宰する、向井康夫先生でした。

落葉の下の土をすくってふるい、目を凝らして見つけた小さな生き物を透明な袋に入れます。それから拡大鏡を使って、その体の形や足の本数など、特徴を調べました。

アリの仲間、ダニ、ヤスデの仲間などを見つけました。落葉の下にはたくさん生き物が

住んでいることに驚きました。(この項、浅野記)

18日には本研究会の主催で「紅葉観察会」を開きました。住民の男女5名が参加してくれました。

お天気も良く、紅葉の黄や紅が鮮やかで、大いに秋を満喫できました。

珀杜、センター共催 自然素材リース作り

11月27日、森の葉、蔓、木の実等を使ってクリスマスリース作りが行われました。

講師は森林アドバイザーの

2021年12・22年1月の活動予定

12/2(木) 定例会

「中山街道」一日探索会

- 集合 9:30 吉成市民センター
- 会員のみ参加可

12/9(木)

「観察ノート・検討会」

- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加可

12/16(木)

「歴史勉強会・古道「中山街道」の魅力」

- ◆講師・八十川淳先生
- 集合 10:00 吉成市民センター

12/23(木)

「観察ノート・検討会」

- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加可

2022年 1/13(木)

「観察ノート・検討会」

- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加可

目黒さんと小林さん。参加者は、植物のことやクリスマスリースに赤白緑色を使う意味等を教えてもらいながら、真剣に取り組み、それぞれに個性が光るリースが出来上がりました。様子は裏面。

大沼さんからです。

『みやぎ野の花山の花』(村上孝夫著・金港堂出版部刊)を読むと、センダイという名がつく植物は、他に「センダイハグマ」、「センダイハギ」とあるが、「センダイトウヒレン」がもっとも目につく花のようだ、とある。「センダイトウヒレン」は、関東地方以北に広く分布し、県内各地でも観察されている。

仙台にゆかりの植物が生えて、身近にみられることはうれしい。

先日、河北新報に練馬区立牧野記念庭園に高知県の知人から送ってもらった苗を、牧野自身が植えたヤマザクラの一種、「センダイヤ(仙台屋)ザクラ」があると記されていた。

また、仙台市で発見した新種のササの学名に、愛妻の寿衛子さんへの感謝を込め、「ササエラ・スエコアナ・マキノ」と命名し、「スエコザサ」の愛称で親しまれる、仙台ゆかりのササもある。



↑センダイハギ ↓センダイヤザクラ

↑センダイハグマ ↓スエコザサ



←講師の目黒真佐子さんと小林明美(左)さん

講師の目黒さんからは、「五感を使って自然観察してみましよう」というお話がありました。

またリースに利用しやすいツル植物や花材に向く実や種子のお話を聞き、その乾燥や保存の仕方なども勉強しました。

いよいよリース作りにチャレンジです。

たくさんのマツボックリ類、ハンノキ類、エノコログサ類、ドングリ類などを使って、それぞれ個性的なリースに仕上げることができました。(浅野記)

